

「エリス発狂の裏にあった相沢の計画」

このテーマでレポートを書こうと思った理由は、舞姫を読んで相沢がエリスに伝えた話の内容を考えるうちに相沢には大きな計画があったのではないかという可能性が浮上し、そのことを自分なりに書きたくなったからである。

その内容をこれから「豊太郎に対するエリスの深い愛情」をまとめ「相沢が最後にエリスに伝えた話とその背景や理由」を根拠にして進めていこうと思う。

このレポートでは「相沢の大きな計画」は成功し、その犠牲としてエリスが発狂したということを述べてある。

まず「エリスの発狂」という犠牲を出してしまった重要なポイントとして、豊太郎とエリスの深い関係が上げられる。作品を読めばわかるとおり、豊太郎とエリスは愛し合っていた。特に豊太郎に対するエリスの愛情は並大抵のものではない。その根拠となる部分が本文にいくつかある。284 頁 6 ～ 8 行目にある「かく衣を改め～ならずとも。」というようなエリスの言葉からわかるようにエリスは自分を捨てないでほしいということを伝えている。

また、ロシアへ行っている豊太郎へ送ったエリスの第一の手紙（290 頁 7 ～ 9 行目）には「朝目覚めしときは～折にもせざりき。」とあるように、幸せな日々から一時でも豊太郎がいなくなると今までにないようなさみしさを感じている。

そしてこのしばらく後のエリスからの手紙（291 頁 2 ～ 5 行目）にも「しばしの旅とて～捨てたまひそ。」とあるようにさみしさはさらに募り、「我をばゆめな捨てたまひそ」という言葉からは不安も伺える。

豊太郎がロシアから帰ってくると涙を流しながら喜び、生まれてくる子供のことを嬉しそうに話した。

このような根拠から、エリスの豊太郎に対する愛情は大変深いものであったことは明らかである。

エリスと豊太郎の深い関係が確認できたところで、これから相沢の大きな計画について「相沢がエリスに話した内容」を中心に説明していこうと思う。

エリスの発狂のしかたや叫んだ言葉から見て、相沢の言葉や言い方は決して豊太郎を庇うようなものではなかったはずである。では、なぜそのような話し方をしたのか。それは相沢がどうしても豊太郎とエリスの関係を断ち、大臣にエリスのことを全く知らせないためである。「奴隷」と呼ばれるほど身分が低い踊り子と一緒にいるような人間をいつまでも放っておくわけにはいかず、ましてやそれが大臣へ知れば、以前のように免官され、せっかくの能力ある人間が無駄になってしまう可能性がある。それを恐れた相沢は、豊太郎が大臣の下で働き始めて間もなく、豊太郎にエリスとの関係を断つことを約束させた。ここですんなりと豊太郎がエリスと別れてくれれば全く問題はないが、豊太郎の親友であり、その性分をよく知っている相沢はここですぐに豊太郎がエリスと別れることは期待していなかったと思われる。相沢の計画に重要なのは豊太郎に「エリスとの関係を断つ」と約束させることであったのだ。

そして自分が大臣に紹介した有能な豊太郎がいずれ大臣に認められ、大臣が豊太郎を連れて日本に帰ろうとするだろうと相沢は予想し、すべては相沢の予想通りに進んでいく。

ある日、相沢は大臣に「豊太郎を日本へ一緒に連れて帰ろうと思うのだが、なにかと面倒な関わりのある者はいないか？」というような相談を受ける。相沢はとうとう時がきたと思い、「そのような者はありません」と答える。安心した大臣は豊太郎自身にもそのことを伝える。相沢の言葉もあって、豊太郎は断れるはずもない。

そしてとうとう相沢は計画の総仕上げに出る。エリスの所へ訪ねるのだ。この時豊太郎が意識を失っていたのは相沢にとってうれしい誤算だったのかもしれない。もちろん大臣には豊太郎の病気のことしか伝えない。

すべての準備が整ったところで相沢はエリスにこう言う。

「君は豊太郎にだまされていただけなんだ。彼のような有能な人間が君のような身分の者と本気で一緒になろうなんて思うはずがないだろう。

彼は随分前、彼が天方大臣の下で働き始めた頃に君との関係を断つと私にはっきりと約束をしている。つまり君と彼との関係はその時から無いも当然なんだよ。

それにこの間、彼は大臣に共に日本に帰ると約束もしている。もちろん君のことなど一切大臣はご存知ない。もし本当に彼が君のことを大事に思っているなら、断るなり、一緒に連れて行きたいと言うなり、どうにでもできただろう。しかし彼はそんなことを一言も大

臣には申し上げていない。

これでわかっただろう。君は彼にだまされていたんだよ。ただ君に子供ができてしまったから、なかなか言い出せなかっただけなんだ。

彼の地位や名誉のためには君は邪魔だと判断した。ただそれだけのことだ。

彼が目を覚まし、元気になったら、君は彼からおとなしく身を引きたまえ。

なあに、心配はない。君と君の母、そして君のお腹の中にいる子供がこれから暮らしていくのに必要な金はこちらで用意しよう。

じゃあ、そういうことから。

くれぐれも自分も日本に行こうなどと思わないことだ。すでに彼の中に君への愛などない。

では、私はこれで。」

これが相沢がエリスに伝えたと思われる内容である。

豊太郎に「エリスとの別れ」を約束させた時からわかるように相沢は思っていることをはっきりと言えるタイプであると思う。だからエリスにも非情になってきつい言葉を言い放つことができるはずである。

そしてこの約束をさせたのはエリスの所へ訪ねる時のためである。

相沢はこのようにして有能な豊太郎という人物を大臣のため、そして日本のために、なんの汚れも残さずに連れ戻すことに成功した。しかしエリスはその犠牲となり、発狂してしまう。

また相沢自身はその有能な人物を紹介したということで大臣などから良い評価を得たのではないだろうか。もちろん出世にもつながるだろう。

以上が相沢の大きな計画の全貌である。

結局は自分のために親友の豊太郎をも利用をしたのだろうか。それとも「お国のため」という明治の精神がそうさせたのだろうか。

本当のところは未だにはっきりとはわからない。